

花巻ファーマー

夏を代表する野菜「大玉トマト」。手を掛けて品質高める



小山田 祥雄さん
(膝立 44歳)

7月末から8月にかけて最盛期を迎える大玉トマト。花巻産のトマトは品質がよく、市場での要望も多いといえます。

小山田祥雄さんも品質にこだわった大玉トマトを栽培する一人です。東京でIT企業に勤めていた小山田さんは22歳の時に帰郷。水稲栽培をする両親を手伝い、27歳で大玉トマト栽培を任せました。

それまで農業の経験はなく、収穫方法から学んだという小山田さん。「今は経験を積んでいます。基本に忠実に。毎日が勉強です」と笑顔を見せます。

大玉トマト栽培は水加減と害虫対策が大切で、手を掛ければ掛けただけ大きくて形のいい実ができるそうです。小山田さんは「生き物相手なの



甘いトマトはお尻に「星」ができると紹介してくれました

で管理に手は抜けません。言葉で不調を訴えてくれないので、毎日葉っぱの先端を見ながら病気になるっていないか確認しています」と話します。小山田さんにお薦めの食べ方を聞くと「そのまま食べるのが一番おいしい。作業の合間に食べると格別だよ」と、生産者ならではの味わい方を教えてくれました。

トマトは水分や栄養が多く、夏バテにも効果があると、夏バテにも効果があると、いわれています。品質自慢の花巻産大玉トマトを夏のお供にしたいかがでしょうか。

広げよう活動の輪

市民活動団体紹介

障がいがあっても
生き生きと暮らせる社会を目指して
NPO法人 **たんぽぽクラブ**

NPO法人「たんぽぽクラブ」は、中高生を対象とした「第1たんぽぽ」と小学生を対象とした「第3たんぽぽ」の2カ所の事業所で放課後等デイサービス事業を展開。成人を対象とした「第2たんぽぽ」では、日中一時支援事業を実施し、障がいのある人たちに余暇支援活動を行っています。放課後等デイサービスとは、特別な支援が必要な児童・生徒が放課後や休日などに利用できる福祉サービスのことで、外出や創作活動、クッキングなどを通して、日常・集団生活を送るための基本的な行動を支援しています。さらに、夏まつりや講演会などを企画。相互扶助の精神で全ての人たちが健やかに暮らせる地域社会を目指しています。



① 紙飛行機制作の様子(第1たんぽぽ) ② おやつ時間の様子(第3たんぽぽ)
③ 第1たんぽぽの職員の皆さん

【問い合わせ】
NPO法人
たんぽぽクラブ
理事長 牛崎 恵理子 さん
(☎21-3882)

市民生活コーナー

「SNSで宣伝すると報酬がもらえる」という話に注意

■どんな相談があるの？

○「商品を購入してSNSで宣伝すれば、クレジットカードのポイントがたまる」という広告代理ビジネスを知人に紹介された。事業者から指定された商品を購入し、SNSで宣伝したところ、商品代が入金されクレジットカードのポイントもたま

った。翌月、さらに高額な商品を購入してSNSで宣伝したが、事業者からの入金がなく、クレジットカード会社を支払いができなくなった

○SNSで商品を宣伝すると商品代が支払われ、報酬などがもらえるというもうけ話に関する相談が全国的に増加しています

■注意することは？

○「簡単にもうかる」などと副業サイトに掲載されて

いたり、友人などから紹介されたりしても、うのみにせず慎重に判断しましょう

○消費者がSNSで商品を宣伝するだけで本当に利益が生まれているのか、もうかる仕組みが不明です。勧められるがままに購入することは危険です

■困ったときは？

○新館市民生活総合相談センター(☎2421111内線259)へ

健康コラム

これは初耳？！

薬剤師さんは相談に乗ってくれるの？

皆さんは次のような「健康や薬に関するちょっとした疑問」を感じたことはありませんか。

- これから飲み会。いつも飲んでいる薬と一緒にお酒を飲んでも大丈夫なのかな？
- 下剤を飲んでいるけど効果が無い！もう少し増やしたいけど、どのくらいまで増やしていいの？
- 海外旅行に行くときは、いつもの薬をいつ飲めばいいのかな…。時差が気になる！
- 最近、あまり食欲が湧かないし、眠れない日が続いて調子が悪いんだよね…
- たばこをやめたくてもやめられなくて…

薬のことは専門的な知識が必要ですから、自己判断はちょっと不安ですよね。そんなときは近所の薬局に相談するのがお勧めです。薬剤師は薬のプロですから、どんな情報よりも信頼できますよ。意外かもしれませんが、調剤薬局では健康に関することや、ベビー用品、介護用品についての相談もできます。気軽に薬局に足を運んでみてくださいね。

ちょっとお得な豆知識

- その1 お薬手帳をお薬処方時に持参すると、会計が安くなる場合があります
- その2 お薬は、処方日から4日以内であれば基本的にどの薬局でも調剤してもらえます



【問い合わせ】健康づくり課(☎23-3121)

地域おこし協力隊

雑草との終わりなき戦い
-ブドウ栽培担当 佐藤 真衣子-

「広報はなまき4月15日号」で近況を報告した時は、厚いジャンパーを着てブドウの剪定作業にいそしんでいましたが、瞬く間に季節は夏を迎え、毎日汗だくでブドウ畑で作業しています。気温がグングン上がり、ブドウの実も葉もズンズン大きくなると同時に、農家さんを困らせているのは、ドンドン伸びる雑草ではないでしょうか。草刈り作業にかかる時間は本当に無益だと農家さんは嘆きます。

私は大迫に来るまで、まともに草刈りをしたことがなく、その苦労を知りませんでした。まし

て、農業界の革命と言っても過言ではない「自走草刈り機」の登場に対しても「草刈りまでロボットに委ねてしまうなんて、人間はこのままでいいのだろうか…」と正直、否定的な考えを持っていました。そこで、今年初めて20㍻のブドウ園の草刈りを1人でやってみました。プロの農家さんが聞いてあきれられると思いますが、1日中草刈りをしたにもかかわらず、丸2日かかってしまいました。草刈りの大変さ、そして高齢化が進む農村地帯でのロボット草刈り機の可能性を痛感しました。

これから秋にかけてブドウ栽培の作業ラッシュを迎えます。農家の皆さん、体調には十分留意して、健康第一で農作業を頑張りましょう！



▲ブドウ畑を1人で草刈りしました